テーマ②『多職種との連携』に関する報告

医師と介護スタッフを中心とした多職種の顔の見える関係づくり

此花区在宅医療・介護連携相談支援室
（受託法人：此花区医師会）

医療と介護にハードル？ある？

1．平成29年6月　主任ケアマネジャーの意見交換会での声

「医師との間にハードルがある」・・・!!

「だから・・・」医師を気軽に訪ねられない

⇩

・指示書も遅くなる

・在宅介護を、継続させる介護サービスの提供にも時間がかかる。

2．平成29年10月　ケアマネジャーへのアンケート結果

・専門職による介護サービスは・・・充実しているのか？

・多職種（医療チーム）連携が上手くいかないのは、医療の知識が不十分だから・・

“何とかしないと、まずは「顔の見える関係づくり」”

「もう少し高齢者医療の知識を深めたら
医師との間のハードルが低くなるかも」

シリーズで勉強会を企画
「在宅生活の支援に必要な医療知識のポイントを
わかりやすく、楽しく学ぶことができます」

第１回目　平成29年度　「医師と顔の見える関係づくり」

フリートーク（好きな食べ物　🍤🍣・休日は・・・）

第２回目　平成30年度　「医師ともっと顔の見える関係づくり」

“ケアーマネージャーのこと知っていますか”
“ヘルパーはこんなことをしています”
以外と色々話せた。先生って気さく！

第３回目　平成31年度　「医療と介護の連携に役立つ基礎知識」

聞くだけではもったいない。ここでみんなで質問攻め
グループワークは面白い。

『第3回目　医療と介護の連携に役立つ基礎知識』の様子

自己紹介は自慢話から、そして久しぶりに会ったから話が弾む

しかし、講義は"目から鱗が落ちる"

～老化の真実～
「老いても元気にほがらかに」「老化」とは何なのでしょうか？」

～認知症の真実～
「気が付いたら崖っぷち」「今でも、施設も予算も全く足りない」

参加者		30名
内訳	医師	２名
	ケアマネ	11名
	その他	17名

【参加者アンケート結果】
・生物としての最後の迎え方、在り方から生き方を考えることができた。
・国の考え、方向性が理解できた。
・高齢者の病態など利用者さんと関わるうえで参考になると思う。

それぞれの職種のことを知らないと連携はできない

「ホンネで**語ろう**在宅連携」多職種研修会ワールドカフェ

第1回目　平成29年度　“連携って難しい。やる気はじゅうぶん”

参加者：　110名

反応と効果

・連携重要性がよく分かった
・薬剤師として多職種へのアピールができた
・病棟の意見も伝えることができた
◎この様な研修を2回目・3回目をしてほしい

第２回目　平成30年度　“「大丈夫。ここは私にまかせてください」

参加者：　92名

反応と効果

・在宅医療に歯科医学面だけでなく、患者さんの生活について考える機会になればと思う
・色々な職種の方と交流ができ、知らないことも沢山吸収できた
◎今後も介護・医療分野での役割を教えてほしい

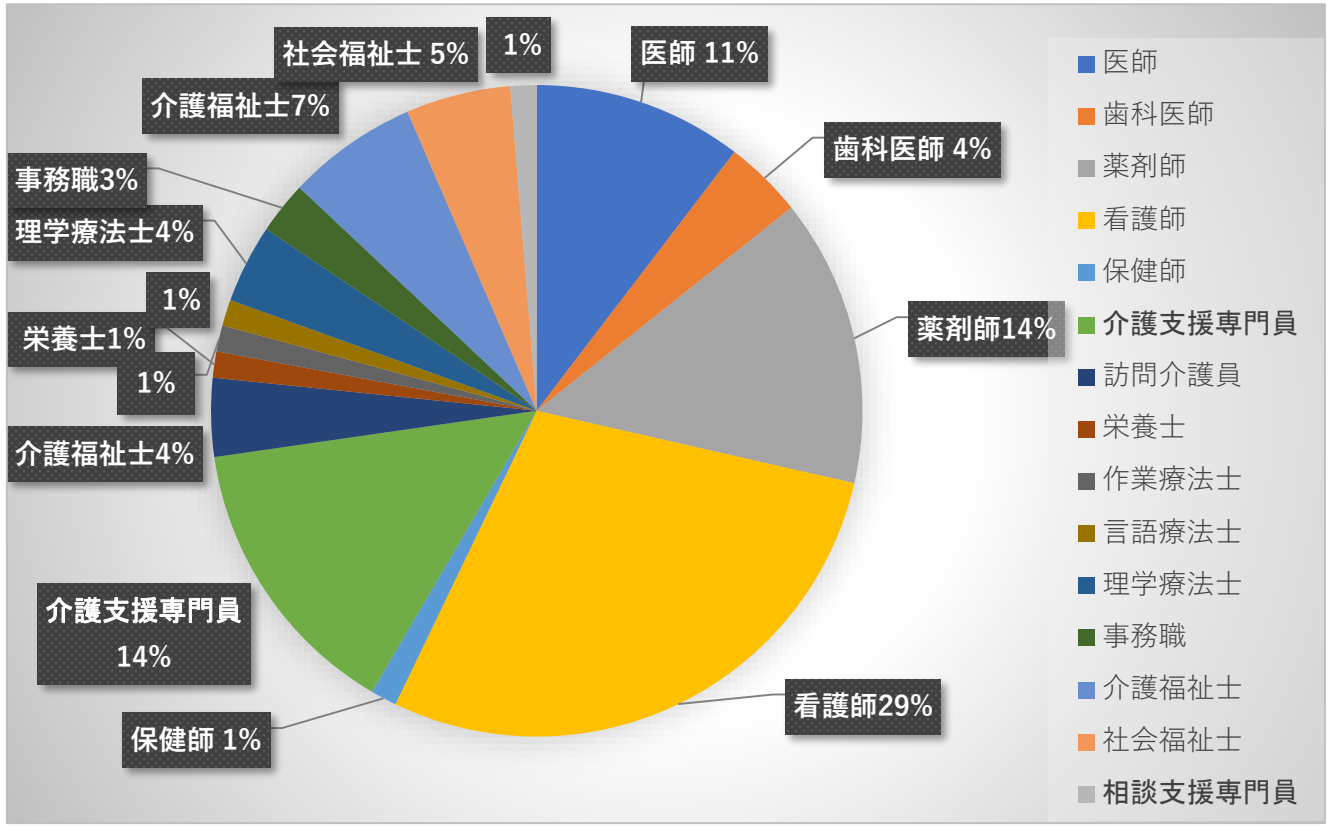
第３回目　平成31年度　“事例で考えよう“

参加者：　81名

『第3回目　～事例で考えよう～　』の様子　その1

～事例とは言えそれぞれの職種、真剣でした～

【参加者の職種と割合】



事例：64歳　男性　肺がん末期
妻は病死
九州に長男在住だが経済的な支援は難しい
がん性疼痛に対してオピオイド（医療用麻薬）

『第3回目　～事例で考えよう～　』の様子 その2

～元のテーブルに戻り、討議の内容を発表～

＜ポストイットに記載の参加者意見＞
・介護保険の見直し、早急に調整（ケアマネジャー）
・療養場所はできるだけ本人の意向に沿うように情報共有（医師）
・患者の状態、気持ちは日々変わる。情報共有と多職種連携（薬剤師）
・緩和ケア病院などと連携。緊急時入院先を決めておく
　➡病院へ。独居の看取りは難しい（ヘルパー）

この交流で、多職種との連携がとりやすくなった。

【参加者アンケート結果】
・チームで関わって行くことの大切さを改めて感じた。
・もっと情報の共有ができればいい。
・色んな想いを知ることができた。視点の違いに気付きがあってよかった。

今後の課題と取り組み方法

多職種研修会の参加者全員が、在宅療養を支える支援者の一員としての意識をもって参加し、連携の輪を広げる交流の場とする

・ワールドカフェの継続により、連携を深める。
・それぞれの職種の強みを生かし、一緒になって動けるために橋渡しをしていく。